



かわい



<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kawai/> (HP 随時更新中!)

節目を大切に、次の成長につなげて

副校長 池田 千穂

年が明けて、早いもので1ヶ月がたちました。もう2月です。2月4日は季節を分ける大切な節目「立春」です。春といっても先日も雪が降り積もり、まだまだ寒い…と思いましたが、「立春から春らしい季節になっていく」ということのようにです。日本ではこのような季節の変わり目に代表される「節目」を大切にしています。



学校にもいくつかの「節目」があります。終業式には学習や生活の振り返りを行い、始業式には新たな目標をたてています。そうすることで、意欲を高めたり、気持ちを切り替えたりすることができます。そして3月、6年生は「卒業式」という大切な節目を迎えます。

先日、体操選手の内村航平さんが現役を「引退」という人生の節目を迎えられました。その引退会見でこのような話をしていました。体操競技で認定されている技は800程あるそうですが、内村さんはそのうち500もの技を習得しています。「僕がこれほど多くの技を習得できたのも、技を覚える楽しさを知っているからこそだと思う。技を覚えたことで一番嬉しかった、楽しかったという記憶があるのが『蹴上がり』です。」内村さんは周りの子ども達より技の習得が遅く、鉄棒の蹴上がりが出来るようになったのは小学校1年生の頃。一人ですっと練習を続けて、ある時、ふっと出来たそうです。「誰も見ていない時にできちゃったので、みんなに知らせたくて体育館中を騒ぎ回ったんですよね。蹴上がりを覚えた時の記憶、感動は今でも忘れられない。500くらいの技を覚えられた原動力になっています。」難しい技を次々習得し、高得点を出してきた内村さんですが、その原点が小学校1年生の時できた技にあったことに私は感嘆し、あらためて、小学校での経験や体験の大切さを痛感しました。そしてそういった経験にも、次の成長に繋がる節目があると思いました。

もともと「節目」は竹の節のことです。真っ直ぐに伸びている竹ですが、その途中に「節」を作って伸びています。この節が成長点を持っていて、そこを起点に竹は生長するそうです。竹は節がいくつもあるので、中には一日に1メートルも伸びるものもあります。また、節があることで、しなやかにしなり、ポキッと折れることはありません。強い風にも重い雪にも耐えることができるのだそうです。



そのような竹と子ども達との成長が重なります。失敗や間違いを経験することがあっても、折れずに成長して欲しい、しなやかな心で辛いことも振り払ってほしいと思います。そして、節目を意識して、しっかりと区切りをつけ、次の成長につなげてほしいです。

竹の節の数は竹の子の時から決まっているそうですが、人間の節はきっと自分で作っていくものだと思います。内村さんのように練習を続けて出来るようになった時、また目標に向かって友達と協力して成し遂げた時、そういった経験が節を作り、子ども達の成長の起点となっていくのだと思います。

なかなか感染拡大が収まらず、皆様方にもご心配やご迷惑をおかしています。制限のある中ではありますが、子ども達の成長のために節目を大切に、一つ一つの行事に工夫して取り組んでいきたいと思っています。引き続き、ご理解とご協力をお願いいたします。